

## 優秀賞・地域企業賞（さいとう製菓賞）



その船は希望へ向かって—さいとう製菓「光の朝」

くまがい ひろみ

初めてかもめテラスを訪れたのは、2020年の冬、妊娠7ヶ月だった。花巻の病院から転院し、大船渡病院での初検診の帰りみち。お目当ては、あの映えるソフトクリーム。ところが試食で貰ったお饅頭を口にすると、すぐに虜になった。みるく饅頭はしつとりと濃厚、目尻までとろけそう。たま糖饅頭は懐かしい味わい。岩手のおやつではお馴染みの、クルミも香ばしい。そして、特に惹かれたのはその商品名。お腹の子につける予定の名前と、同じだったのだ。

これは買いたと箱を取ると、パッケージにも目が留まった。水平線から覗き始めた朝日へ、一隻の漁船が進んでゆく。「平和で幸せな日の始まりです—。」と添えられた一文にも、心を打たれた。

東日本大震災で、岩手の海と漁業は計り知れないダメージを負った。そこから立ち上がり“平和で幸せ”な朝を迎え、以前のように漁へ出る。その尽力たるや、想像だけで鼻の奥がツンとした。この漁船が獲りにゆくのは、きっと希望…！妊婦は感受性が豊かになるのだ。その日は十二個入りを二箱買った。以来、検診の帰りはほぼ寄った。妊娠後期の太りやすい時期だったので一日一個、おやつはそれだけ。大切に食べたものだ。

今回このコラムを書くにあたり、さいとう製菓の商品開発課の方にお話を伺った。「光の朝」は2017年、かもめテラスのオープンに合わせて、店舗でしか買えない新しい名物を、と開発されたとのこと。パッケージは、敢えてイラストを使用。昇り始めた眩い太陽は明るい未来。水面がきらめく中、海原へ漁船は進む。復興や生活を立て直す中で、悩む事もあるけれど、希望へ向かって進むというメッセージを込めたのだそう。妊婦の勘は、遠くはなかつた。心に響く一文は、最後に手作業で一つひとつ、貼り付けているそう。

話を戻すと、出産は明け方の破水から始まった。大船渡病院へ移動する車中、あの箱に描かれているような景色を見た。オレンジ色の朝焼けの中を漁船は進み、浜はもう、動き出している。その尊さに勝手にエールを貰い、一生忘れまいと思った。

翌日、帝王切開で男の子を産んだ。名前はヒカリ。やっと呼べると、嬉しかった。自宅へ戻ると、目まぐるしい日々が待っていた。あらゆる余裕は無くなり、夫とぶつかる事も増えた。やるせない夜は時折あの箱と、出産前日の景色を想った。目に映る全てに、応援して貰ったような朝焼け。大きくなったら、朝日とお饅頭の話をきみにしよう。そう思うと

育児の孤独感や、慣れない疲労も多少は凌げた。

「光の朝」は我が家の定番になった。お店の近くへ行く際は必ず寄る。遠方の友人への宅配便に忍ばせる。身近なひとが大船渡方面へ行くと聞くと、かもめテラスを必ず勧め、「とってもおいしいお饅頭がある」と推す。

自宅では、箱も取って置いている。子のお名前シールなど細々とした物を入れたり、裁縫箱にした物もある。この先も増えてゆくだろう。

※コラムの著作権は、すべて執筆者に帰属しています。無断での転載、使用はご遠慮ください。